

日吉台地下壕保存の会

会 報

第48号

発行 日吉台地下壕保存の会
編集 事務局

223 横浜市港北区下田町3-15-27

寺田方 TEL.045-562-1282

(年会費)一口千円で、一口以上

郵便振込口座番号00250-2-74921

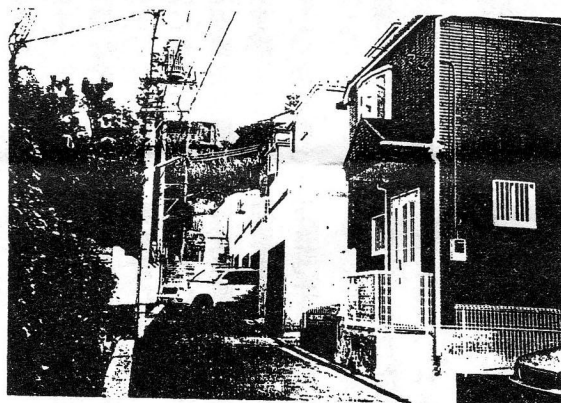
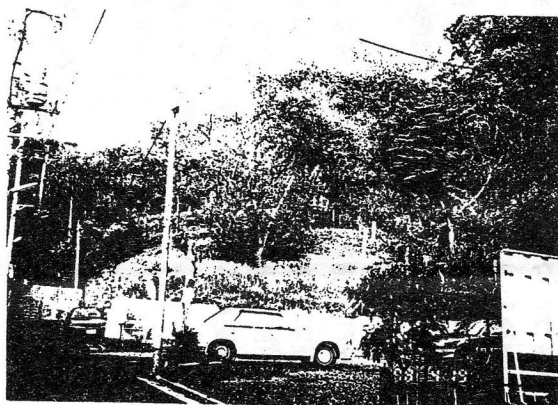
(加入者名)日吉台地下壕保存の会

会計のお問い合わせ： 白鶴 邦子

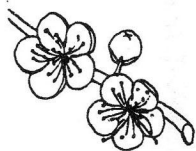
港北区下田町1-4-14 045-563-3760

その他のお問い合わせ： 喜田美登里

港北区下田町2-1-33 045-562-0443



慶大寄宿舍北側斜面下に建てられた住宅
上：建築以前 下：建築後



| 目次 | ページ |
|---------------|-------|
| 年頭にあたって | 2 |
| 「体験者の話を聞く会」報告 | 3 |
| 募集します 会員の皆様へ | 3 |
| 連載日吉台地下壕・ | |
| 当時の関係者の思い出話 | 4 ~ 5 |

| | |
|----------------|-------|
| 日吉台地下壕の | |
| 案内人の一人として | 6 |
| 戦没学生の記念碑建立 慶応大 | 7 |
| 県立大師高校生の地下壕見学記 | 7 ~ 8 |
| 運営委員会報告 | 8 |

年頭にあたって

会長 寺田貞治

会員の皆様、明けましておめでとうございます。

日吉台地下壕保存の会も、今年の四月で満一〇年目を迎えます。保存の会が満一〇年という歳月を今日まで曲がりなりにでも続けてこられましたのは、会員の皆様の強いご支援があったものと、深く感謝するところでございます。

今までの保存の会の運動の成果としては、かなり市民の間に日吉台地下壕の存在が知られるようになったことと、神奈川県や横浜市の文化財課の日吉台地下壕に対する認識が深まったことです。また、日吉台地下壕に関わる土地が二ヶ所にわたってマンションや分譲住宅に開発されておりますが、幸いにして地権者や開発業者の御理解によって、地下壕の入口を含む部分が残ったことも私たちの運動があったからだと思います。

文化庁では、近代遺跡の所在について、①鉱業 ②エネルギー産業 ③重工業 ④軽工業 ⑤交通・運輸・通信業 ⑥商業・金融業 ⑦農林水産業 ⑧社会 ⑨政治 ⑩文化 ⑪その他の一分野に分けて、順次全国調査を実施しております。平成一〇年度は所在調査の第三年度目として、⑨政治 ⑩文化 ⑪その他の三分野について調査を行なうこととしており、横浜市からは、すでに神奈川県に対し報告がなされております。いずれ神奈川県から文化庁に報告がなされます。

日吉台地下壕については、⑨政治の分野で横浜市から報告されたことです。報告にあたって遺跡の評価についてはA、B、Cの三段階にランク付けを行なうとあり、日吉台地下壕は最も高いAランクで報告されていると、神奈川県文化財課から連絡がありました。これは今までの私たちの運動の最大の成果だと思えます。ランク付けについては、Aは我が国の近代史を理解する上で欠くことのできない遺跡、Bは各地域の近代史を理解する上で特に重要な遺跡、Cはその他の遺跡、とするとなっています。

今後は、平成一五年度までに詳細調査が行なわれます。日吉台地下壕を含む⑨政治、⑩文化、⑪その他については、平成一三年度に対象遺跡の選定、平成一四年度に調査、平成一五年度に報告書作成が行なわれます。私たちも、この報告書に向けて横浜市文化財課と連絡を保ちつつ更なる調査と、行政に対する史跡指定の要請を続けていく必要があります。

ところで現在、私は保存の会の会長をやっておりますが、この一年間、私は体調が良くないこともあって、会の活動に対して殆ど何もやってきませんでした。しかし、運営委員の皆様がしっかりやって下さっているの、なんとかここまで来ることができました。ありがとうございました。

また私は、昨年の四月に永年努めました慶應義塾高等学校を定年退職いたしました。この間、皆様方にいろいろと御迷惑をおかけしたことが多々あったことと存じますが、ここに深くお詫び申し上げますとともに、いろいろと御指導、御支援を頂きましたことを厚く御礼申し上げます。

最後に、日吉台地下壕のますますの発展を願って、年頭の言葉に代えさせて頂きます。

「体験者の証話を聞く」 報生口

運営委員 亀岡 敦子

日吉台地下壕保存の会の活動の重要な柱のひとつに、調査研究があります。本来、会員あげて取り組むべきなのですが、なかなか機会がつかれず、寺田会長の努力に負うところが大きかったのが現状です。それでも、これまでに総会において、あるいは「横浜・川崎平和のための戦争展」において、体験者の話を聞く機会を持ちましたが、このたび、日吉全体を、より明確に知るために『聞く会』を企画しました。年も押し迫った二月五日、太平洋戦争開戦日八日の三日前でした。

第一回目として、慶応予科二年で海軍予備学生を志願し、

連合艦隊司令部付き通信班員として一九四五年（昭和二〇）一月から終戦（八月一日）まで日吉で過ごした土方定彦さんと、軍属として蟹ヶ谷通信隊に勤めていた山室勝司さんのお話を聞きました。参加者は運営委員を中心に、戦争体験の掘り起しをすすめている市民団体のメンバーや教職員の一五名程でした。会場は大西副会長の尽力で、かつての予科校舎で戦時中海軍に接収されていた現慶応高校の教室です。（正確には戦後の増築部分ですが）

お二人とも、戦場体験ではないものの、無線という手段を通じて、戦艦や特攻隊や前線の部隊と直結しており、肉声ではない故のものと深く悲痛や無念を感じられたようです。熱を込めて語る内容は、聞く者を圧倒しました。土方

氏は、戦艦大和の最後を語りました。四月七日一時すぎ受信し、二時半まで、通信は続いたと。山室氏は具体的な勤務体制等をのべながら、東京海軍通信隊蟹ヶ谷分遣隊の姿を立体的に見せてくれました。特攻隊からの電波は、突然プツンと切れるのだとも。聞いていたのは無線の音だが、それは多くの犠牲者の叫びでした、と。

両氏からは、もっと聞いておかねばならない事があります。事実を語り、事実を受けとめ、共に感じ、そして考える。そして次世代に伝えてゆく。地下壕保存の運動の原点を再確認した一日でした。今後の企画は会員の皆様にお知らせします。是非ご参加ください。

皆集まらねえ

会員の皆様へ

★運営委員になってください
保存へむけて様々な活動をしていきますが、一人でも多くの方の智恵と知識と手が必要です。会の運営・見学案内・調査や勉強会、展示会開催等、お力を貸してください
★体験者の方、話を聞かせてください

日吉台地下壕、蟹ヶ谷通信隊等、関連施設に勤務していた方、近くに住んでいた方、どんな事でも結構です。情報をお待ちしています

★その他、ご意見や感想もお寄せください

連絡先：喜田、白鶴



連載

日吉台地下壕

当時の関係者の

思い出話 26

蟹ヶ谷通信隊

さきて…寺田貞治

★Y氏・蟹ヶ谷

昭和一五年に、東京海軍無線電信所蟹ヶ谷受信所が設けられた。所長は福島県の人で志賀光男（故人）といい、また、風見要次郎（故人）という下士官がいた。

私は昭和一八年、二一才の時、横須賀海軍航空学校気象練習生（三期生）として、入学した。

一九年春、第四艦隊基地のトラック島に行き、観測船に乗り、海軍の気象員をしていた。トラック島で敗戦となり、二一年に引揚げてきた。

蟹ヶ谷受信所は、木柱のア

ンテナ塔が下田から蟹ヶ谷まで林立し、蜘蛛の巣のように張りめぐらされたアンテナから、直径三cmもあるケーブルが受信所の建物まで引張られていた。

この木柱のアンテナ塔は、一六年の開戦後に、受信設備を充実するために建てられ、住民が臨時雇いで木柱を建てる穴を掘った。軍が買上げた畑に野菜ができていて、もったいないと思いながら穴を掘った覚えがある。受信所の烹炊所は丘の上にあった。

爆撃を受けて周辺の寺や民家が焼けた。蟹ヶ谷の高林山専念寺の住職・伊藤文雄氏によると、寺は全て焼夷弾で焼けた。荷車二台分の焼夷弾が落ち、近くの遠藤家が二軒焼け、丘の上の鉄塔も一部焼けたという。

地下壕は、避難所として、素掘りの壕が丘の中腹から受

信所の方に掘ってあった。蟹ヶ谷の西の丘の斜面に、受信設備が設けられたコンクリートの地下壕があった。戦後、ここで自殺したり、シンナーを吸ったりした人がいて問題になった。

二一年一月～二二年末迄、この蟹ヶ谷通信隊の兵舎を借りて、慶応の獣医畜産専門学校が開校していたが、火事があり他に移転し、現在は運輸省の宿舎になっている。

★M1氏・久末

平成元年、藪の中に二億円が捨てられていた騒ぎがあった近くには我が家がある。藪とは反対側の山の斜面にコンクリートの地下壕が残っている。斜面の下に出入口のコンクリートが三本東側に六×七mほど出ていて、長さ五〇mの南北のトンネルとつながっている。南北のトンネルの上に、空気穴として一m四方位の縦

穴が三つあった。

壕は一九年春から秋にかけ、海軍工廠施設部の人掘っていた。かなり手際よく穴を掘り、コンクリートを打ったので、専門の人がやっていたようだ。

壕には無線機など入れて事務を執っていた。三cm位の太さのケーブル線を丘の上のアンテナから引いていた。

アンテナの木柱は、久末の丘（蟹ヶ谷の西の丘）の上にも沢山建っていた。戦争が負けるにつれ、木柱を次第に取払っていった。

通信隊員はかなりいた。丘の上の施設には特攻隊志願の人が、乗る飛行機がなく蟹ヶ谷に配属されて来っていた。また、捕虜も沢山来ており、日本兵と一緒に体操したり、野菜を作ったりしていた。

通信隊の兵士が外国放送を聞いて、「日本は負けるとい

っている」と喋っていた。

戦時中、地下壕の話をする
ことは出来なかった。

兵士が野菜を作るため農作
業などの道具を借りにきた。

「お腹が空いた」といつてき
たこともあり、夕食などをあ
げた。海軍で配給されたもの
を持ってきてくれたこともある。
通信隊の残飯を貰って豚
を飼っていた。

設営隊は谷戸の奥に小屋を
建てて住んでいた。戦後、こ
の建物は土地の有力者が持つ
ていった。焼け出された人を
住まわせてあげればと思った。
その他、セメント・鉄筋など、
いろいろなものがあつたが、
住民が盗みにきてみんな持つ
ていった。通信隊のケーブル
線も、みんな勝手に掘って持
つていった。ケーブル線を掘
るためにスコップや鍬などを
貸してあげたので、分け前を

貰つたのではないかと疑われ、
主人が警察に引張られたこと
もあった。

海軍の主計将校などは、食
糧を一杯持つていった。また、
真空管をトラック一杯持つて
いった軍人もいた。

戦後、間もなく、進駐軍が
きて、トランスなどを運んで
いった。進駐軍の軍人は質が
悪く怖かった。最初やって来
たのは工作隊であつた。住民
に酒の配給のある時を狙つて
やってきて「酒を出せ」と言
つていじめた。子供にはチュ
ーインガムなどをくれたこと
があつた。

進駐軍は、銃を構えて立つ
てた。「パンパン」と言つて
近づいてきたので、「ありが
とう」と言えばいいだろうと、
「サンキュー」と言つて帰つ
てきたが、あとでパンパンの
意味を聞いて驚いたことがあ

つた。娘を外に連れ出すのは
危険であつた。進駐軍は一年
位いた。

戦中、海軍に買上げられた
土地は戦後返還された。海軍
が借りた小作人の土地は地主
に返されたため、小作人は困
った。社会党の人に世話にな
った人が多かったが、世の中
が落着いてくると自民党に変
つていった。

★M2氏・久末

地下壕はツルハシとスコッ
プで掘っていた。掘り出した
土はトロッコで運んでいた。

丘の中腹を垂直に切つて、コ
ンクリートで固め、その上に
土をかぶせて完成させた。セ
メントなどは、丘の上から斜
面に板を敷いて下ろしていた。
出入口のある東西の地下壕
は幅一・五m、高さ二m位、
長さ十数mである。南北の地
下壕は幅四・五m、高さ三m

位、長さ五〇m弱である。

真中の地下壕にはモーター
が、南の地下壕にはタンクが
あつた。奥の南北の地下壕に
は、無線機やバッテリーが、
壁際にぎっしり並んでいた。
床には溝が掘つてあり、ケ
ーブル線が幾つも通つていて、
木の蓋がしてあつた。通信隊
はここで仕事をしていた。戦
後、まだ米軍が進駐してこず、
海軍が警備していた時に地下
壕の中を見せて貰つたが、設
備はまだそのままになっていた。
た。

米軍が来て、通信機などを
大きな箱に入れてトラックで
運び出していた。米軍は通信
所の警備にきていた。戦後で、
泥棒・強盗などが多かったこ
ともあるが、米兵がやたらに
銃を撃つて危なくて仕方がな
かった。

(生協ニュース教職員版第四
九号より抜粋転載)

日吉台地下壕の
案内人の

一人として

運宮委員 喜田 美登里

二月二日（土）に保存の会としては久しぶりに日吉台地下壕の見学会を行ないました。会報で報告されているように、見学会を申し込む団体は毎月欠かさずあり、この所「平和のための戦争展」のプレイベント以外には保存の会が呼びかけた見学会はありませんでした。「平和のための戦争展よこはま」、「平和のための戦争展かながわ」を含めて三つの展示会に関わり沖縄で「第二回戦争遺跡保存全国シンポジウム」があり、と、一年の前半が慌ただしく過ぎていきましたが、年の締めくくりに二月五日の「体

「**「験者の話を聞く会」**と、この見学会ができてよかったと思います。これからは会報でお知らせできるように早目に計画したいものです。」

一二日の参加者は二五名、川崎平和館の近くの西加瀬町会、「戦争体験掘り起こしの会」、中学校の先生等。案内役は今回は四名で交代しながら説明していきます。何で四人もいるのでしょうか？

保存の会ができてから一〇年、寺田会長がずっと案内役を続けていられますが、ガイドのできる人をもっと増やしていこうと、一昨年の夏に見学コースの案内マニュアルも作ってみたのです。今までに戦争展のプレイベントの時等に数回、この複数のガイドを試しています。私もメンバーに入っているのですが、人に説明することの難しさを感じ

ています。マニュアルに基づいた説明といつても、自分の中で整理されていないと言葉に出しにくいものですね。私は見学会には出来るだけ参加するようにしています。(何度歩いてみよう!)それに見学にこられた方たちとの交流は楽しみです、保存運動のこれからについて沢山のヒントを貰えますから。戦争遺跡から学ぼうとする人達がこんなにいると心強く思います

黄葉もそろそろ終わりの銀杏並木を辿り、白垂の高校の前を通り過ぎ道路に出て、地下壕たて穴へ見学コースを行くと、寮のある半島は南はマンション、北側は六軒の住宅が建てられ、両側から身を削られています。

この五〇年、地下施設だから無事に残されていたこの歴史の証人、地下壕も、山をも

削られる開発にあつては大変。斜面の縁がなくなつて景色もずいぶん変わり、地下壕の入口もまったくむき出しの感じになつてしまいました。地下壕の案内人としては、もうこれ以上何もしないで、そつとしておいてと折るばかりです。案内の上達が急がれますが、何人かで案内することはいろいろと話し合いができて、とてもいいことだと思つてゐるのです。それぞれ忙しい中で保存の会の活動をしていると事務的なやりとりで終わりがちなので、案内という緊張感をもつたチームプレイで補えるようにも思えます。一二日の案内は参加者の皆さんに満足して戴けたでしょうか？



1998年(平成10年)11月7日(土曜日)

日本経済新聞(夕刊)

戦没学生の記念碑建立 慶応大

「無念の思いで帰らぬ人となった戦生の思いを、目に見る形で残したい」。慶応義塾大学は七日、東京都港区の三田キャンパスに第二次大戦の戦没学生の記念碑を建立した。戦争



除幕された慶応大の戦没学生の記念碑(7日午前、東京・三田)

を体験した卒業生から記念碑建立を望む声が強まり、このほどようやく実現にこぎ着けた。この日午前十時から始まった除幕式には約千人以上が参加し、戦場に散った学友の在りし日を偲

び、みなさんの思いを天に向かつて語っていくことだと思ひます」と話した。戦争で約四十五人の学友を失ったという東京都江戸川区の守克彦さん(71)は、「生きていくうちに記念碑

ができて良かった」とひとこと。練馬区の根本三郎さん(76)は「これを機に今の学生にも、戦争がいかに悲惨なものであるかを考え

てほしい」と話していた。

同大学では学徒出陣などで千五百人以上の学生が戦死。除幕式で鳥居泰彦塾長は「今回の建立を機に我々ができることは、学友を偲び、みなさんの思いを天に向かつて語っていくことだと思ひます」と話した。

同校産人部会から「環境・人権・平和交流体験」感想文集を戴きました。

神奈川県立 大師高等学校生の 地下壕見学日記

地下壕を作るために朝鮮の人も連れてこられ、危険な所では何人かが死んでいるらしい。

地下は暗く、とても寒かった。ぬかるんでいて、歩きずらかった。いくつもの部屋があり、兵隊さんが寝ていた所作戦室などがあった。奥の方へ行くと靴もどろだらけになった。カベにはいろいろな文字が書かれていた。ゲジゲジかムカデのようなものがいた。カニもいた。何十年か前にこの地下壕の中で兵隊さん達が過していたと思うと何だかすごい所に入れたんだなと思う。身近な所に戦争の跡地があるなんて知らなかった。少し興味がもてた。

川崎市平和館の感想

「一つの地球二つの世界」

というビデオがすごく重かった。僕たちに何が出来るか考えてみるけど募金くらいしかないのかな?と思う。これからの生活をちよつと見直すべきかもしれない。わがままは余り言えないなと思った。地球は一つなのに、二つの世界があった。一本のボトルの水で何人かが救えると考えたと賛沢しすぎだと思った。お金があるからといって食糧をあげたりしても何も変らない。畑を作ったり、食糧になるものの種とかを配って、一緒に作ったり、きれいな水が飲めるように井戸を作ったり、お金をうまく使って交流を深め、協力していくしかないと思った。



通達当白禾女員△△△出版生口 第四回

九月二十四日一九時

フードギャラリ

会報発送の作業後に行なう

報告

一、八月一日下田町自治会による見学会

二、同二日「NHKおはよう日本」地下壕紹介

三、同二四日「TBSおはようクジラ」地下壕紹介

四、同二一三〇一八日「平和のための戦争展かながわ」参加

五、九月一二日長野生協による見学会

議題

*保存の会による見学会を二月一二日に予定

*寄宿舎北側の宅地造成について市の文化財課より開発業者に問い合わせがあった由。九月二七日に見学に行く予定

通達当白禾女員△△△出版生口
第五回

一〇月二二日一八時半

フードギャラリ

報告

一、九月二九日県立大師高校課外授業による見学会二五名

参加

二、一〇月三日川崎市教職員組合による見学会

三、同二七日同、計五〇名参加

議題

*「体験者の話を聞く会」を二月五日に予定。土方氏などが候補

*北側の宅地造成地は個人住宅なのでそれ程大規模ではない。元の写真を撮っておくべきだった

*体験者の話を聞き、記録し、資料を収集する等進めたい

*蟹ヶ谷の地下壕の全体保存について教育庁に要請書を提出した

*横浜の状況について聞けた

め一〇月二九日文化財課を訪

問の予定

通達当白禾女員△△△出版生口
第六回

十一月二日一八時半

日吉地区センター

報告

一、横浜市文化財課訪問(寺田、白鶴、亀岡、喜田)小西

課長より日吉台地下壕は県のリストに記載されていることを確認

議題

*二二日五日体験者の話を聞く会 話し手…土方、山室氏。場所…慶応高校 時間…一四時頃

*同二二日地下壕見学会 案内…佐相、新井、谷藤、喜田 時間・場所…十三時日吉駅集合

*会報四八号

一九九九年一月二〇日発送

内容…会長挨拶、体験者の話を聞く会、見学会、その他